

教育

清明心といふこと

問　　日本人の心のもちまへ――

倉　橋　惣　三

「今日は、ちょっと妙なことを伺ひますやうですが、一體日本人の心のもちまへといふものは、さういふのでございませうか」「これは大きなお話になりましたね。一體どういふ譯で、さういふことを」

「別に、そんな大きいことを考へて居ります譯でもございませんが、わが子を日本人らしく、眞に日本人らしく育てたいと思ひますと……」

「いや、よく分りました。よくまあ、そこまでお考へになりました。實に大切なことを」

「一體如何なのでございませう」

「一體といふと、むつかしくなりますがね。また、向き／＼によつて、いろ／＼に

「子どものやうなのがあります。よい／＼ませうが……。清明心といふことがよく言はれて居りますね。」

お子さん方の防空服裝
がごゝのひましたか

及川　ふみ

お子さん方の服裝は從來とも活動に便利なものといふ事が先づ頭に浮んで來るのであります。丈夫な布地で作られて、洗濯によく堪へられるものでなければなりません。當節ではこんな條件に合ふものと云へば各家庭で皆さんのお持合せの衣類の厚生が一番よいのであります。

この頃婦人の標準服の獎勵の聲も高いのであります。がその布地はやはり在來の衣類の厚生でなければなりません。保健の上からも、活動能率の増進の上からも、又布地の經濟といふ點からも是非ともこの標準服を日常の働き衣服として使用しなければならないのであります。とりわけこの標準服が以上の長所の外に更有にその裁縫が簡易であると云ふ大きな特點のあるものであります。標準服製作の立前が自家裁縫といふことに目標をたててある事であります。

大人用の服裝について、自家裁縫主義である以上お子さん方の服裝は尙更のこと

「それはどういふことで」

「まあ字の通りでして、清く、明い心といふのですから、うらからいへば、にぎりのない、くもりのない心といふ譯であります」

「それが、日本人の……」

「つまり、大昔の日本人の心もちを、古い物語や、歌などで研究して、さういふことが見るので。ところで、それを深く論じ立てることは別として、丁度まあ、幼い子どもの心もちと同じところがありますね。單純で、わだかまりがなく、ひつゝにくこぢれても、打ち開いて、すなほに、といふ譯です。」

「子どものやうなのがあります。子どものやうと申して、子どもにもいろいろあります。が、子どもを皆さういふ心

に育てなければならぬといへます。」

「ないようだ」

「それが日本の子どもので」

「さうです。子どもだからといふよりも、

日本人の心のちぢまへを、ほんたうにもたせるために、子どもの時からといつた方が正しいでせう。」

「やさしいようで、むづかしいことで」

「さうです。ほんたうにそうです。それに

は、どうするかうすると申すより、私達お

となが、ほんたうに、清く明い心もちでな

ければなりませんからね。子どもの心の

ちぢまへになり得てゐる方から、すなほ

ちまへは、清く明いのが本來ですが、それ

を潤らせ、かげを與へるのはおとな的心で

すからね。識らす／＼の間にね。だから、

むづかしいのです」

「ほんたうに」

「完全にさういふ心になることは、なか

／＼むづかしいことです。せめて、子ども

の前に語る言葉、見せる行ひの中には、

「なんだから分りました」

「日本のお母様が日本の子を、日本人の心のも

つこのないよう、氣をつけたいもので

す。つまり、うそや、うらおもてや、ごま

かしや、つくろひことや、さういふことの

とお母様の手製のものでなければなりません。

従來の様に既成の幼児服が手軽に購入

出来た時代にはこれがなか／＼實行がむ

つかしい様であります。さうならず

て来るといふこともあります。さうならず

にあられないともいへませう。」

「それでは、子どもの方が教育されます

ことですか？」

「さつちだつていゝでせう。さつちも日本

人なのですから、その時、眞に日本人の心

のちぢまへになり得てゐる方から、すなほ

に、その心もちを受けとればいゝでせう」

「つまり、すなほといふことに互になる

のでござりますね」

「さうです。ほんたうに清く明るい互の心

になります。さういふことが常に行

はれてゐれば、子どもはいよ／＼清く明い

心のちぢまへになります」

洋服のみならず、帽子、上靴などの附

屬品なども持ち合せの材料をもつて、各

家庭で自家製作品によつて幼児の防空服

装の用意を充分にせられんことをおずく

めする次第であります。